

令和4年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時	令和4年6月6日（月） 午後1時55分～4時
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

櫻澤 誠、綿貫友子、橋本早知子、渡辺宏治、中野 武、

山川 薫

事務局

新子寿一（教育長）、福島 潔（教育部長）、松田佳世（文化財課長）、山根 航（文化財課課長補佐）、安村俊史（歴史資料館館長）、越智勇介（歴史資料館学芸員）

1. 開会（13時55分）

進行・山根

2. 新子教育長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員紹介

5. 事務局紹介

6. 議事

①会長・副会長の選出について

会長・副会長は委員の互選によって定められているが、自薦・他薦ともなかったため、事務局から会長に綿貫委員、副会長に櫻澤委員を提案し、委員全員一致で決定。

[議事は会長が進めるとなっているため、以下綿貫会長が議事進行]

②令和3年度事業報告

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 山根報告

[資料参照]

【質疑】

○講演会等の事業参加者について

委員：各事業への参加者の重なりはどの程度あるのか、またリピーターはどの程度おられるのか。それに関して、新型コロナの影響はどの程度あったか。また新型コロナの影響で見学を中止した学校が、もとのように戻ってくると考えているか。

事務局：各事業で重なっている参加者は多いが、古文書講座中級編は各地から来られており、それだけを受講する傾向がある。文化財講座は市民限定であるなど、それぞれの事業での差もある。新型コロナであまり参加できなかったのが、参加できるようになった喜びをお聞きすることが多い。秋季企画展の小学校見学は、例年ならば100校前後あるが、令和2年度は40校、3年度は56校であり、やや回復してきた。このまま順調に回復するかどうか心配しているが、このような状況下で積極的に来館を呼びかけることは、当面控えたいと考えている。状況を見守りたい。

委員：柏原市内の小中学校は、資料館に来館することがごく普通になっている。しかし、公共交通機関を利用した校外学習は禁止されているので、行きたくてもいけないという学校も多い。私の学校では、館長に学校へ来てもらって授業をしてもらった。

事務局：公共交通機関を利用できないという話は方々から聞いた。バスでの来館となると、駐車場の問題や、予約がとれないなどの問題もあるようだ。この春も柏原市内は公共交通機関利用自粛となっており、徒歩で当館への校外学習に変更する学校が、今週2校来館するので、体験的な学習などをさせていただく予定である。

○博物館実習受け入れについて

委員：実習生の受け入れが8名というのは、当館としては多いのではないか。

事務局：当館は丁寧な実習を実施しており、6名ぐらいが理想である。ただ、新型コロナの影響で実習受け入れを中止している館もあり、受け入れ希望が多くなっているようである。今年度は9名となっている。

○企画展の展示について

委員：企画展「長瀬川と玉串川」において、二つの川の分岐点が付け替え前と付け替え後で変わっているのか。それがわかるような展示にして欲しかった。

事務局：付け替え後の用水路に注目した展示だったので、付け替え前のことについては、あまり触れなかった。わかりにくかったかもしれない。

○団体見学について

委員：小学校以外の団体は、どのような団体なのか。

事務局：市民の任意のサークルなどが多い。新型コロナの影響で活動を中止していた団体が、徐々に活動を再開しており、これからはまた増えてくるだろう。

○YouTubeやオンラインの活用について

委員：新型コロナの影響で来館者が減るなかで、YouTubeやオンラインを活用して、企画展の紹介や大和川付け替えの紹介などをできないか。

委員：広報については、以前からも課題になっていたがどうか。

事務局：そのような方法に不慣れということが大きいですが、オンライン等を実施しようと思えば、かなりの人や時間を割くことになり、現状では実施できていない。ただ、一つのかたちとして、オンラインガイドツアーを実施している。

事務局：オンラインガイドツアーをYouTubeで配信することはむずかしい。ただ、企画展のダイジェストなどは可能だと思うので、検討してみたい。

委員：オンラインガイドツアーは、どのように広報したのか。

事務局：広報かしわらと当館のホームページで紹介し、市民の参加も呼びかけている。参加者は各回十数名ほどである。周知の方法も考えてみたい。

委員：遺跡を紹介するようなツアーならば、遠方からでも参加する人があるのではないだろうか。ぜひ周知方法を検討していただきたい。

委員：オンラインガイドツアーはズームで実施したのか。

事務局：そうだ。

委員：できれば、それを編集してホームページに掲載してもらいたい。

○ギガスクール構想など

委員：学校では一人一台のタブレット配付が進んでいるが、学校と連携して授業の実施などは考えられるのではないか。

事務局：学校にとって、どのような方法がいいのか。また、どのようなことが可能なのか。こちらはまだよくわからない部分もある。

委員：学校としては、できるならば学校に来てもらって子どもたちと接しながらしてもらったほうがいいと思う。それができない遠方の学校などでは、オンラインも選択肢の一つだと思う。

事務局：まず企画展の紹介など、可能なところから着手して、今後の可能性について考えていきたいと思う。

○夾紵棺について

委員：現在展示中の安福寺所蔵の夾紵棺は市指定文化財になっており、奈良や東京の国立博物館でも展示されたということだが、今後の見通しはどうか。

事務局：日本で最高の技術、最高の残存状況の夾紵棺であることは間違いない。聖徳太子の棺の可能性が高いと考えている。聖徳太子かどうか確定できないが、一級品であることは間違いない。

委員：重要文化財に指定されてもいいのではないかと思うが。

事務局：聖徳太子の棺の一部がどこかで確認できれば、これが聖徳太子の棺で間違いないとなる。そうなれば間違いなく重要文化財だと思うが、現在は確認できないため、しばらくは様子を見守りたいと思う。

○横穴公園の維持管理について

委員：公園の草がかなり伸びているようであるが、維持管理はどこが行っているのか。

事務局：公園としての管理は公園担当課である。草刈等は定期的に行われているが、必要があればこちらからも連絡させてもらう。

③令和4年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 山根報告

[資料参照]

【質疑】

○高井田山古墳について

委員：高井田山古墳は高井田横穴とどのような関係があり、位置づけになるのか。サインなどが少なすぎるのではないか。

事務局：高井田山古墳は史跡高井田横穴公園内の古墳という位置づけであり、高井田山古墳そのものは史跡には指定されていない。そのため、高井田山古墳だけのサイン等は少なくなっている。

委員：高井田山古墳は、柏原市にとって物語性のある貴重な遺跡なので、サインの整備な

どを考えてもらいたい。

○山崎家文書について

委員：大県には山崎家が数軒あるが、どこの山崎家か。

事務局：鐸彦神社鳥居前の庄屋をやっていた、大きなお宅の山崎家である。

委員：庄屋ならばさまざまな史料があるのではないか。成果を楽しみにしている。

事務局：残念ながら近世文書が少なく、近代文書が中心であるが、整理を進めている。

○貝製品について

委員：貝ボタンの調査は行っているのか。

事務局：これまでほとんどできていない。今後取り組んでみたい。

○古文書講座について

委員：古文書講座修了者が当館の所蔵史料の整理に関わるようになるのか。それを考えると、すぐに定員がいっぱいになったということであるが、講座の回数を増やすなどの方法はとれないのか。

事務局：定員 24 名は、研修室に机が 24 台しか並ばないからである。新型コロナの影響で、机一台に 1 名としているが、2 名着席が可能な状況になれば、人数をもう少し増やすことはできると考えている。史料調査への協力については、以前は古文書クラブという組織をつくって史料を読んでもらっていたが、現在は活動していない。

事務局：講座の回数を増やすのは現状ではむずかしい。来年度以降、定員を増やす方向で考えてみたい。また、将来的には終了生が史料解読に協力してもらえるような体制をとれるようにしたいと思う。

委員：定員 50～60 名で講座形式で実施している例もあるが、毎回同じ人が受講しているような例も多い。

事務局：当館では、今回初めてという方もかなりおられるので、一定のニーズがあるのは間違いない。そのような人を大切にしたいと思う。

事務局：古文書講座は、どのような形式で実施するのかむずかしい。受講生の理解度もさまざまであるし、じっくり進めてほしいと思っている人もいるし、次々と読んでいって欲しいと思っている人もいる。当館としては、あまり大人数にならず、個人に目が行き届くような講座にしたいと考えている。

委員：市民大学ではなく、資料館なので丁寧な講座を心がけてもらいたい。

事務局：柏原市民限定で人数を限定することも一つの方向性として考えている。みなさんの意見も聞きながら考えていきたい。

委員：贅沢な悩みのようにも思うが、それだけ市民に期待されているということなので、ぜひいいかたちになるように考えてもらいたい。

○『柏原の歴史』の刊行について

委員：『柏原の歴史』は年一冊の刊行予定か。

事務局：はい。今年度は第 2 巻として古墳時代を刊行し、全 5 冊を予定している。

委員：少ないスタッフで大変だと思うが、今年度スタッフが1名増えたのか。

事務局：昨年度、今年度と1名ずつ増えたのだが、1名ずつ退職しているので、人数は変わっていない。

委員：大変だと思うが、ぜひ続けて欲しい。気軽に手にとっていただけるので、このような本はいいと思う。販売はしているのか。

事務局：1冊500円で販売している。

委員：ぜひPRに努めて、広く知ってもらいたい。

事務局：このような本を作るのは大変だが、刊行を続けたい。

○子ども向けの講座について

委員：大人向けの講座ばかりなので、夏休みの子どもの向け講座をぜひ実施してもらいたい。

事務局：3年度もにぎわい観光課とともに、日本遺産関連で子ども向けの講座を予定していたが、新型コロナで中止になるということがあった。しかし、当館独自の事業としては実施できていない。職員の退職などもあり今年度はむずかしいが、来年度は何かやりたいということで計画を進めている。今週は市内の小学校が2校来館し、さまざまな体験学習の実施を計画している。メニューは多数用意できている。

④その他

○韓国との交流について

事務局：韓国ソウルの漢城百済博物館から、研究・展示などで交流を進めたいという申し出があり、これに対応していくことにしている。今後の展開を期待している。

議長：マイクを事務局にお返しする。

7. 閉会

(終了 16時)